

全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

第60号(平成29年11月号)



夕影が降りて海峡秋深し（直人）

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局 鈴木 正之

〒140-0014 東京都品川区大井1-54-6 いぶき学院内

TEL:03-5743-7458 FAX:03-5743-7459

Mail:center-office@shijuku.net

理事長 仲野十和田

TEL03-3963-5572

広報部長 大住 明敬

TEL048-957-8608

理事長コラム



☆エリア塾関東主催（9/3～4）、恒例の懇親旅行は、過去最高の人数でした。それはステップさんの新しい研修施設を使わせていただけたことが、一つの大きな要因だったと思います。元大手会社重役さんの別荘だったということもあって、とても素敵な施設でした。料理はステップの高橋先生やステップ保育園の調理を担当されている方、そして谷村会長を中心に行っていただき、言うまでもなく幸せなひと時を過ごさせていただきました。私は私塾ネット顧問の小宮山先生や元湘南ゼミナール代表の木島先生（お二人はびしひしと言っていただけてるので・笑）、その他いろいろな方々と大変有意義な時間を過ごすことができました。私塾ネットならではの素晴らしい会だったと思います。

☆全国塾コンソーシアム協議会（10/8）が、公益社団法人全国学習塾協会主催 塾の日記念会IN SAGA（10/9）の前日に行われました。各会の情報共有と、主に塾議連をどのような形で立ち上げていくかがテーマでした。学習塾がしっかりと国に対して意見を言える体制は、できるだけ早く作りたいものです。また、塾の日記念の懇親会は佐賀県知事をはじめ、そうそうたる顔ぶれでした。来年は東京で30周年記念行事が行われますが、エリア関東代表の渡辺浩先生が、実行委員長として活躍されます。応援していきましょう！

☆エリア関東主催（10/22）研修会。渡辺浩新代表に

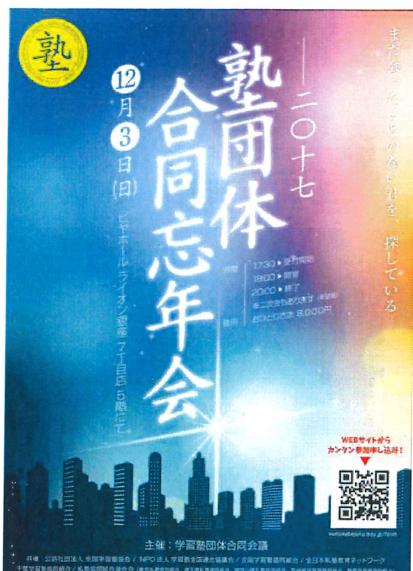
理事長 仲野十和田（ナカジュク・東京都）

なって初めての試みでした。40代の若い人たちが中心となって、ゼロから作り上げたものです。テーマは「国語」。終着点の難しいテーマですが、AIやロボットと国語の関係を結びつけたりと、国語の苦手な方も学びのある研修だったと思います。私塾ネットの新しい形を見ることができました。懇親会も塾関係者は7秒自己紹介という新企画に盛り上がり、最後は渡辺浩先生＆柳田浩靖先生のHIRO・HIRO名コンビによるパフォーマンスで、大いに盛り上りました。今後が楽しみです！

☆NPO塾全協全国研修大会IN OKINAWA（11/4）。第一部は、大和大学学長の田野瀬良太郎氏の講演でした。全国屈指の進学校となった西大和学園の創始者でもありますが、学校を東大・京大合格を目標とした進学校にしていくことに目標を定めたときの内部との軋轢、そしてそれを達成していくまでのプロセスなどをお話しいただきました。とにかく苦手な人にもコミュニケーション（ノミニケーションと言わっていました…）を取って、思いを伝えていくことが如何に大事かということを強く感じました。一方で、政治家として自民党総務会長まで務めた方ですが、県議会議員になるとき、衆議院議員になるときに落選の経験をされ、計8年間の浪人生活を経験されたとのこと。当時の大変な経験も興味あるものでした。その後、全国から7件の公立入試について報告があり、様々な違いを知ることができました。懇親会では地元の沖縄創作踊りで大いに楽しませていただきました。

2017年度・学習塾団体合同忘年会のお誘い

今年の忘年会はこれまでとはちょっと違う！私塾ネットのメンバーも実行委員に加わり、忘年会を盛り上げます。皆さんの応援をお願いします。



日時：12月3日（日）午後6時～8時

場所：ビヤホールライオン銀座7丁目店

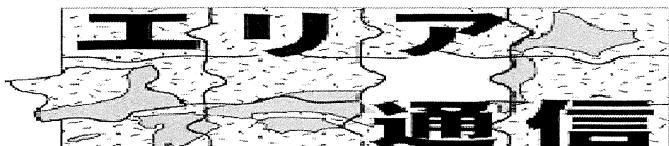
主催：学習塾団体合同会議

実行委員長：渡辺 浩

（公益社団法人全国学習塾協会関東支部支部長・私塾ネット関東代表）

今年の忘年会は首都圏の学習塾団体と全国組織の学習塾団体から組織されている「学習塾団体合同会議」が主催し、そこに参加している学習塾団体から数名ずつ実行委員を募り、実行委員を中心に忘年会を企画運営することになりました。

私塾ネットからの実行委員は、実行委員長の渡辺浩先生以下、蓮克彦先生、中村庸彦先生、長江広紀先生の3人の先生方です。



エリア東北 佐々木 康 (やまばと学習館・青森県)

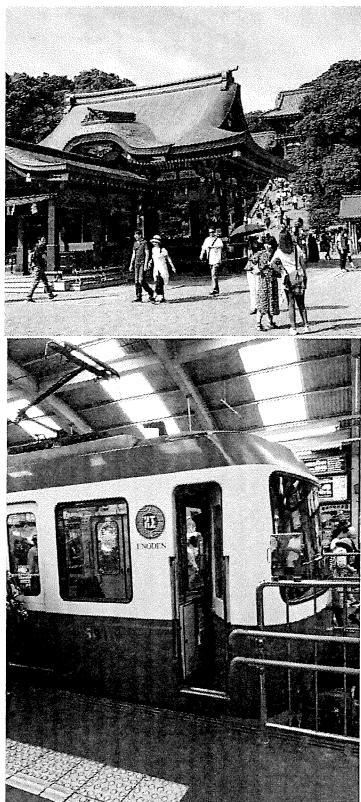
いよいよ受験期。中高大それぞれの入試に向けて皆様お忙しい時節と思います。

今年度のエリア東北は、9月3日(日)エリア関東と合同で「茅ヶ崎懇親旅行」を行い、エリア東北からは安藤代表・福士副代表・佐々木の3名が参加しました。個人的な感想が主になりますが、懇親会についてこの場で振り返りたいと思います。

県内の学習塾団体と、東北の数名で行っている勉強会で年数回しか外に出る機会をつくってきました。そのためか大変新鮮な外の空気、都会の喧騒と高い高い街並みに終始呑まれっぱなし。そして修学旅行以来の鎌倉。まるで小学生のようにドキドキしっぱなしでした。鎌倉では鶴岡八幡宮を観光、参拝。大変清らかな気持ちになり、いざ懇親会会場へ。

懇親会では素晴らしい料理の数々と各地の銘酒に囲まれた素晴らしいものでした。夏期講習会の疲れも癒される素晴らしい時間。ご無沙汰している先生方とのお話。そして大盛り上がりの2次会と、あつという間の1泊2日でした。

懇親会の中ではいろいろな方とお話をさせて頂くことができました。青森の中のさらに小さな田舎町の学習塾の塾長である私。やはり世間というか一般的、というか、そういった業界の動き、トレンドに疎いことも今回のお話のなかでよく分かりました。やはりこういった全国規模の



集まりにより積極的に参加をして、新しい空気を取り入れていかないとならないなど反省。全国様々な塾、そして指導方法・運営手段があるということをしておくことで、あらたな局面に立ち向かうときに、これらの知識は大きな役割を担うかもしれません。

創業11年目とまだまだ若輩者。動いて、見て、聞いて、話して、感じて、もっともっとアンテナを広げて勉強していきたいと思いました。

今回の懇親会につきまして、お忙しい中運営をして頂いたすべての皆様に、改めて感謝申し上げま



エリア関東 代表 渡辺 浩 (渡辺塾・東京都)

今年の4月に仲野前代表の後を受け、早6ヶ月が経過しました。この6ヵ月間は正直私塾ネット関東の活動だけでなく、他団体のイベントなどを任せられることが多くありました。言い訳がましくなりますがご心配をおかけしまして誠に申し訳ございませんでした。ただ、そのような中でも9月の「STEP宿泊研修」、10月の「私塾ネット関東研修大会」と大きなイベントを連続で行うことが出来ました。これも先生方のご協力なしには実現できなかったと思いますので、ご協力いただきました先生方には大変感謝しております。

9月のSTEP宿泊研修では龍井代表も顔を出してくださり、深夜まで塾談議に花を咲かせました。特にSTEPの高橋先生には今回の宿泊場所のご手配から全員分の食事を作っていただき、大変感謝しております。「また来年もやろうね」という力強いお言葉もいただきました。根が正直ですのでそのまま本心で言ってくださったと思いますので、そのお言葉を真に受け、来年もぜひよろしくお願いいいたします。(笑)また、遠く青森からは安藤エリア東北代表、福士先生、佐々木先生と3名の先生がご参加くださいり、湘南・鎌倉散策をはじめ宿泊までしていただきました。至らない点も多々あったかと思いますが、ぜひまた来年も一緒に研修会をやりましょう。

そして、先日行われました「私塾ネット関東研修大会」では国語をテーマに研修会を行わせていただきました。仲野先生には「僕(渡辺)のやりたいことをやれば良いよ」という暖かいお言葉を頂いておりましたので、以前から是非一度やりたかった『国語』をテーマにさせていただきました。国語という教科はその性質上、なかなか答えの出る教科ではありません。だからこそ、他塾ではどのような取り組みをしているか、どんな教材を使っているのか、など少しでも参考になればということで今回の企画に至りました。研修内容の詳細につきましては別頁をご覧ください。今回の研修会の運営に当たり副代表の柳田先生と教務部長の宮澤先生には多大なるご協

力を頂きましたこと、大変ありがとうございました。もちろん事前準備から当日の細かい動きをしてくれた長江総務部長、教材会社様のプレゼン大会の事前準備、運営をしてくださった蓮研修部長、懇親会の司会をしてくださった村社渉外部長、受付をしてくださった木谷会計部長、鈴木センター会計部長、長原先生、そして、当日準備から手伝ってくださいました先生方にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。お陰様で当日にお褒めのお言葉を頂戴し、後日私学の先生からも、「今年は参加できなかったけど、来年は必ず参加するよ。すごく研修内容に興味があったんだよね」などのお言葉を頂戴しました。まだまだ勉強不足で何をすればよいのか模索中ではありますが、今後も自分自身がまず興味を持てるかどうか、そして、肝心な目の前の生徒さんにとって有益なものであるかという点に拘り、今後も様々な催しを企画していきたいと思います。



**エリア中国 西本 雅明
(パワーゼミ西本・広島県)**

「夏期講習が終わったら、何して遊ぼうかなあ。」って、それを心のよりどころに夏を頑張った自分が、毎年のことなのに学習できない自分が情けない。9月になつたら待ち構えていたかのように、あちらでもこちらでも連日の会議、研修、学校説明会、そして毎週末の出張。気が付いてみれば「ハロウィン」です。毎年「ダマサレタ!」と、感じているのは、僕だけでしょうか?

私塾ネット中国では7月の定例会で「学習アプリ」(実際のところ何と呼べばいいのかわからないですが)を勉強しました。「スタディサプリ」等の「学習アプリ」は、高校生たちが通学の車内で受講するなど、便利に手軽に利用しているようです。ネットの環境さえあれば通塾の必要のない時代が来るのかもしれません。塾内に取り入れて活用している塾もあるようです。講義時間が短いので生徒たちにとって有難いようですし、受講料も驚くほど安いので、受講開始のハードルが低そうです。同じような映像授業がどんどん出てきているので、授業でどう使えばよいのか考えていきたいと思っています。

7月はもう一つ、お楽しみに「プログラミング講座」の体験をしました。小学生用教材を使った簡単なプログラミングでしたが楽しめました。プログラミングは目的を達成するために工夫をしたり試行したりしなければなりません。うまく活用できると、楽しみながら論理的な思考力が育つ講座です。

危うく忘れるところでした、7月の研修会には四国から湯口先生がご参加くださいました。会場となった若竹塾の玄関のエレベーター前で「上へどうぞ。」と案内をしてくださっていましたので、緊張して、ちびりそうになったことも付け加えておきます。

さて、9月の研修会にはアメリカの大学進学のコンサルティングを行っている「アメリカンドリーム」の吉

川浩司先生に講師として来ていただき、アメリカの大学の仕組みや大学卒業後の進路などを教えていただきました。僕の文章力では紹介できないほどの仕事をなさっていますので、「広島 アメリカンドリーム」で検索してホームページをご覧ください。子供たちがアメリカの大学も進学先として考える時代になれば、始まろうとしている中学校や高校での探求型授業や、大学入試改革の意味が出てくるような気がしました。



**エリア四国 十亀 幸雄
(そがめ塾・愛媛県)**

広報には四国の秋季研究会のことを報告すればよいと安易に考えていたのですが、今年はなかったのだと、ハタと気がつきあわてています。残念だなと思って、昨年の秋の研修会をみていたら、私塾ネット四国支部長の寺嶋先生が研修会の案内文にこんなことを書いていました。

「人は先に進もうと思えば思うほどに悩みが増えてきます。温故知新はいつの時も古からぬ言葉。先達に、進んだ道を語つてもらうとき、そこに今まで見えなかつた何かがきっと見えてくるでしょう」(「2016年私塾ネット四国秋季研修会案内」より)

みなさん、自塾に送られてくる様々な業界雑誌やパンフレットに何かしら違和感を感じたことはありませんか。それは、その多くが自分の独創性をのみ誇って過去の足跡を軽んじていたり、あるいは無知であったりであるからではないでしょうか。独創性のみを誇ることを商業主義ということができるトスレバ、昨今の私たちはそうした商業主義の中で右往左往させられているのではないでしょうか。私塾ネット副理事長で、四国の会員である楠山敬志さんは、英検・漢検ですらその要素が強いと言われています(『実践』6号巻頭文)。

故山口恭弘先生が「私はわかりやすい授業以上に大切なことは、教える教師の自己研鑽だと確信している。常に人格的に自己を磨き、学識を高めていく不断の努力である」(『実践』創刊号)と言われたのは、このことは正反対で、寺嶋先生が言われた温故知新のなかに自己研鑽のヒントがあったのではないかでしょうか。

故山口先生に指導いただいた私塾実践同攷会の月刊ニュースレターには、私塾ネットの先生方の書評がたくさん掲載されています。意外な方が意外な本を読まれ、書評を寄せられています。みなさん、あなたの知り合いの先生はこんな本を読まれているのです。最近の書評です。

- 2015.12『心をつかむ仕事術』 白石亮太郎 (四国)
- 2016.7『アジア・シフトのすすめ』 楠山敬志 (四国)
- 2016.8『時雨のあと』藤沢周平著 木内恭裕 (四国)
- 2016.10『すべての疲労は脳が原因』 近藤誠介 (四国)
- 2017.2『みかづき』森絵都著 仲野十和田 (関東)
- 2017.3『罪の声』塩田武士著 谷村志厚 (関東)
- 2017.4『満州国演義1』船戸与一著 大住明敬 (関東)
- 2017.5『怪異・妖怪の世界』 十亀幸雄 (四国)
- 2017.6『仏教と神道』ひろさちや著 神野純典 (四国)
- 2017.8『南無大師遍照金剛』 中村直人 (関東)

意識するかしないかはともかく、故山口先生の言う自己研鑽には違いないものです。山口先生はあまり文書を書かれなかつた方ですが、いくつかは広報誌に掲載されたものがあります。今ひとつ立ち止まって、先達が語った言葉に耳を傾け、これから先を考えていくことも大切と思われます。

日本列島縦断 北から南から

塾の日シンポジウム佐賀大会に参加して

エリア関東 総務部長 長江 広紀（英数学院・神奈川県）

10月9日に行われた塾の日シンポジウム2017佐賀大会（全国学習塾協会主催）に出席させて頂きました。九州は人生で2回目、佐賀は初めてです。前日に渡辺浩先生と村社圭一先生と新幹線で博多に入りました。行きのグリーン車で、俳優のオダギリジョーに遭遇しました。

前夜祭では佐賀城本丸歴史館や佐賀県庁展望台ホールでの宴会が行われたそうです。来年が明治維新150年にあたり、数多くの偉人を輩出した肥前藩です。しかし我々はその頃中州など博多の繁華街を歩いていました（笑）。

中州の屋台に行ってみたかったのですが、地元の方から「ぼったくりだ」と散々聞かされていましたので、最近痛い目にあった私はすこし挫け、またあまりの混雑ぶり（ほとんどが観光客です）で諦め、本場とんこつラーメンを「shin-shin」で頂きました。ショッピングセンターのキャナルシティへ行った後、もつ鍋を食し、その後2軒をはしごしました。博多はとにかく若い人たちで賑わい活気がありました。

翌日、お二人は理事会に出席するため早朝佐

賀に入り、私は電車でのんびりと佐賀入りしました。電車で1時間ほどですが、佐賀は博多の活気とは対照的で、静かな街でした。どこかで時間をつぶそうと思ったのですが、駅前にはそんな場所は見当たらず…。

第1部の記念式典では、読書作文コンクールの表彰、自主基準遵守塾表彰。第2部では「世界のがん研究の現状と将来の方向性」と題し佐賀出身の東京大学大学院の宮園浩平教授の講演がありました。第3部の交流会では、全国から集った先生方と懇親を深めました。2次会3次会と続き、ホテルに深夜に戻るのはいつものことです（笑）。九州支部の先生方のおもてなしに満足させて頂きました。

来年は全国学習塾協会設立30周年にあたり、東京で塾の日シンポジウムが開催されます。今度は関東支部長を務める渡辺先生を始めとする関東支部の面々が、全国の先生方をおもてなし致します。先生方、来年10月8日は是非東京でお会いしましょう！



大忙しの仲野理事長、この日は佐賀、そして翌週は沖縄と八面六臂の活躍でいささかお疲れでは？P1にレポートあり



来年の塾の日シンポジウム東京大会の実行委員長に決まりた渡辺エリア関東代表、右はエリア中国の西本さん

子どもたちの未来のために。

民間の学力向上を推進する教育資源として、
コンプライアンスを重視した高い品質を提供する事業として、
お客様に信頼されるよりよい学習塾業界の確立を目指しています。



OKK「大井町から教育を考え会」第12回教育相談会開催される

2017年11月3日・「きゅりあん・品川区立総合区民会館」

OKKは私塾ネット会員である木谷朝子さんが会長を、鈴木正之さんが事務局長を務める、いわば私塾ネットの姉妹団体です。名称にある大井町は品川区の中心となる地区で（ちなみにJR品川駅は港区にあります）、品川区は東京都でもっとも斬新な教育行政が行われているところです。その町から新世代の塾と学校の関係を創ろうと、鈴木さんの発案で15年前に立ちあげられたのがOKKです。OKKの他の任意団体にない一番の特徴は、塾と学校そして企業が同じ会員資格で参加し、共同で会の運営を行っている点です。このような会の運営形態は他に類を見ないものとして注目されています。今回はこれに行政と地域商店会も加わっての一大イベントとなりました。当日は私塾ネット関東から多くのメンバーが駆けつけ、会の運営のお手伝いをしました。以下はOKK会長の木谷朝子さんのレポートです。（編集部）

2017年11月3日に12回目のOKK『大井町から教育を考える会』主催の教育相談会が開催された。今年から、品川区・品川区商店街連合会・品川区商店街振興組合連合会の後援を得た。行政もOKKの趣旨に賛同したという事で、会員の気持ちもさらに引き締まり奮い立った。

毎年好評な「声の教育社」三谷潤一氏の『新大学入試制度一期生となる現中学3年生の志望校選び、受験生増え見込まれる中学受験』についての教育講演会は保護者・受験生が目を凝らし、熱心に聞き入りメモを取っていた。

また、東京私立中学高等学校副会長の實吉幹夫先生の私立高校学費負担軽減制度説明会では、私学に興味を持ち可能なら進学先の選択肢の一つとして考えたいという保護者の方が多い様に感じた。今年の講演会・説明会は、今までよりもお父様の参加が多かった。子育ても今や夫婦でという事が当たり前になってきた

のだと思う。これが全国に広がれば母親の負担が幾分か軽くなり、少子化に歯止めがかかればとも感じた。

さらに今年は、中学高等学校相談会に都立八潮高校が初参加した。教育を考えるという共通の意識の下、他の30校と同じく熱心に相談を受けていた。

来場者数は250名前後であった。しかし、今回の来場者の特徴は、午前11時30分の教育講演会から午後3時・4時の学校相談会までいらした方が多いことだった。これは、受験生だけでなく保護者の方も同様だった。ある受験生は「まだ受験校を決めていないけど、今日の相談会で結構絞れました。」と言っていた。「クラスの中でも受験校が決まっていなくて、来週の保護者面談のためにきました。」という受験生もいた。また、ある保護者の方は「今まで十回ほど色々な受験相談会に行きましたが、こんなにじっくり細かいところまで相談できた



のは、今日が初めてです。しかも、相談した学校全部が親身になってお話し下さいました。」と感想を述べられた。

このことは、いつも申している通り、OKKの第一義、子供たちの未来への一助となるべく相談会を続けていくことと合致した。

現在の加盟校：31校 後援：品川区・品川区商店街連合会・品川区商店街振興組合連合会 協力：全日本私塾教育ネットワーク・有限会社小池企画印刷・デザインオフィススズキ、そして、加盟塾・協力塾が企画・運営している。今年も感動とより充実して終了したOKK教育相談会だった。

報告：エリア関東会計部長 木谷朝子
(木谷塾・東京都)

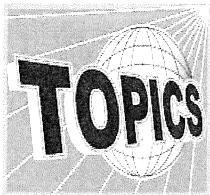


開会の挨拶をする木谷会長、司会進行は鈴木さん



日本音楽高等学校の生徒さんによるミニコンサート





私塾ネット関東 秋の研修大会

日時：平成29年10月22日 午後3時～午後5時30分

場所：東京都品川区大井町 アワーズイン阪急

10月22日（日）。暗雲が空を覆い尽くし、暴風暴雨が行く手を遮り、まさにこれから台風が来ようとしている午後3時。そこから始まりました私塾ネット関東研修大会。しかし、そんな天気など何のそのと、熱気あふれる先生方が50名以上大井町のアワーズイン阪急の会議室にお集り下さいました。

報告：中村庸彦（中村学院・エリア関東広報部長）

まずは第1部。

20年国語を教えていたる渡辺新代表が、塾ですぐに使える内容を研修会で行いたい、とのたっての希望により行われる。「様々な国語の授業の取り組みを紹介」。



仲野理事長挨拶

宮澤先生から「プログラミング教育とは何なのか、その先にあるプログラミング的思考とは何のためにあるのか」という提言から様々なことが話し合われました。

その中で、「プログラミング教室ではただその教材



エリア関東の研修会を取り仕切る関東の若き執行部、右から渡辺、宮澤、柳田の三氏

をやるのではなく、感想文を書かせたり、手順を書かせたりする。」「生徒にテキストを読ませず、講師が音読したものを聞かせて必要なことをメモさせる。」「読解問題の解く手順を明確化する。」「読書感想文を書かせるときにインタビュー形式で自分の感じたことをまとめさせる」など各塾の取り組みを惜しげも無く発表していただきました。

また柳田先生による「読解力の定義とは何か」と言う事に対しては。

「読んで、イメージを浮かべられるかどうか。」「日本語で書かれた文章を正確に読みこと。」「読んで気持ち動かすことができるかどうか。」「質問に適切に答える力。」「会話がきちんとできる力。」「人や性格、年齢によって違うものであり、



エリア関東渡辺代表の開会の挨拶、左は長江総務部長





その都度文章の中身をどう捉えるかということ。「そもそも、定義することに意味があるのか」など様々な意見を伺うことができました。

そして最後に「塾の役割とは生徒に点を取らせること。それはどういった問題を生徒が解けるようにしたいのか、ということをゴー

ルとして、教材選択から教える内容の割合などの計画を一人一人考え作ること。」という、渡辺、柳田先生の発言はこれから新たな議論を生み出しそうになったところで会は終了しました。まさに将来を生み出す「国語力」を語る素晴らしい舞台となりました。

続いて2部。

今度は企業の皆様による「教材会社によるイチオシ国語教材プレゼン大会。」

育伸社「国語とは語彙力、読解力、記述力である。」、SRJ「教育も150年前とは大きく変わった。これから子供達に求められる力を育てる。」、学校図書「要約し自分の考え方や表現力をつけよう。」、教育委開発出版「‘新’国語力とは正しいコミュニケーション能力をみにつけることである。」などの素晴らしいプレゼンをいただき、授業に有益な情報を教えていただきました。

渡辺新代表になってから初の研修大会。新たな力とその熱意が頗れた素晴らしい会となりました。次はご覧になっているあなたの参加をお待ちしております。

右上段の女性4人組、前列左から木谷さんと辰巳先生(東京女子学園)、お二人はOKKでも強力なコンビで女性パワーを發揮されている。中段左は監物さんと右内藤さん(NPO塾全協東日本ブロック理事長)は7秒スピーチを披露。右下段の谷村会長は「黒ひげ危機一髪」あたりを一発で引き当てガッツポーズ。

1部、2部の熱気そのままに皆さん、3部の懇親会へ迎います。急遽、参加された方もいらっしゃり、始まる前から盛り上がりは隠せません。そんな中、私塾ネットらしく素早い開式の挨拶から素早い乾杯のご発声が終わり、懇親会がスタートしました。

さてまずは今回、取り入れられた7秒スピーチ。短いと侮るなかれ、7秒の中に各人の思い、意思、性格などが凝縮されます。

7秒で美しくまとめられる人、イベントの宣伝に専念する人、早口でごまかそうとする人、うまくいかず成仏(?)できない人。多少の忖度はご愛嬌。ご安心ください、学校や企業の方々には一人30秒のサービスタイムが付いております。

続いて、渡辺新代表イチオシ!「黒ひげ危機一発」。知っていましたか、あれ、飛ばした人が勝ちなのですね。見事、飛ばした方には豪華、と思われる商品が贈呈されました。

イベントだけでなく、各テーブルでのお話も大盛り上がりの中、懇親会は幕を閉じました。



れぽーと！ 私塾ネットエリア関東、エリア東北合同懇親旅行

報告：中村庸彦（中村学院・神奈川県）

9月3日（日）

残暑などどこ吹く風。最高気温が27℃ほどの過ごしやすく感じる日曜日に。

やってきましたお待ちかね、懇親旅行。場所を昨年の青森から、今年は神奈川へと移し、元気な塾人が集まりました。

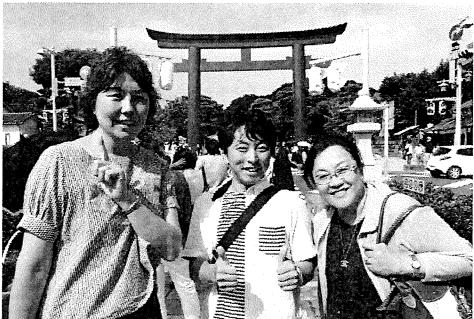
まず、スター
トは東京駅。

東北から来て
いただいた安藤さん、佐々木さんそして福士さんのお三方と関
東各地より集
まつた皆様と共にマイクロバス
で出発です。

さすがに休みの行楽地、道も混み大変なようでしたが無事に藤沢に到着。そこから江ノ電に乗って鎌倉へ出発です。蓮先生のお子様は電車がお好きのよう

「江ノ電に乗れる！」と言つて
やって来ました。嬉しそうで何よりです。

鎌倉に着きましたら、まずは腹ごしらえ。
「鎌倉釜飯かまかま」にていろいろな種類の釜
飯を堪能しました。そのあとは鎌倉散策。鶴岡八幡宮
から小町通りと参拝からちょっとした食べ歩きまで鎌倉を満喫いただけだのではないでしょうか。



ラボ」。元別荘ということもあって何とも素晴らしい施設です。参加した皆さんあちらこちらを見学して回っておりました。

そしてそして、本日の料理はメインシェフのSTEPの高橋先生、谷村先生、湯口先生、それに加えて施設の管理をされている方の料理も加わり何とも豪勢。さらにお酒や名産が各地から集まり華やかな宴となりました。

老若男女が集まり、こちらそちらで教育談義に花が咲き、宴会は夜遅くまで続きました。

新たな交流からより深い交流が生まれる懇親旅行。次回は是非、参加してみてはいかがでしょうか？



予告

全日本私塾教育ネットワーク（私塾ネット） 「第16回 全国塾長・職員研修」

～誰もが知らなければならないこと～

蓮池 薫先生 『夢と絆』

平成30年（2018）4月22日（日）

東京・大井町「きゅりあん（品川区立総合区民会館）」

東京都品川区東大井5-18-1 品川駅から電車で2分。大井町駅から歩いて1分。



そうですかあ～。もう16回目になるのですね、この研修会も・・・

昨年の中室牧子先生、『「学力」の経済学』。いかがでしたでしょうか？成功するためには必要な力は「自制心（自分をコントロールする力）」と「やり抜く力」と中室先生はおっしゃっておりました。宿題や勉強をあとまわしにしがちだった子どもは、大人になってから「ダイエットできない」「貯金できない」傾向にあるというお話は今でも覚えています。それぞれの塾さんで「自制心」と「やり抜く力」を養うための仕組みをどう再構築されたのか、とても興味があります。来年の研修会で「その後」のお話も伺いたいところです。

その来年の全国研修会は。。。

たくさんの講演を聞かれているある方が、「絶対に聞きなさい」とお勧めしてくださいました先生です。日本人として絶対に聞かなければならぬお話。そして子どもたちや他の方にも伝えなければならないお話。

北朝鮮に拉致された蓮池薰さんのお話です。これ以上何も言ふことはありません。

来年4月22日（日）東京に絶対に来てください。

1978年7月31日。当時はまだ彼女だった今の奥様と一緒に大学の夏休みに柏崎に帰り、二人で海辺で夕日を眺めてた時に拉致された蓮池さん。講演では、ご自身が北朝鮮に拉致された当時の様子や、拉致されている間の北朝鮮での暮らしのお話、また帰国に際しての裏事情など、実体験を中心に拉致問題についてお話をされます。

蓮池 薫 先生

新潟産業大学経済学部准教授／拉致被害者

【プロフィール】

1957年 新潟県柏崎市生まれ。

中央大学法学部3年在学中に拉致され、24年間、北朝鮮での生活を余儀なくされる。

帰国後、1年間の市役所勤務を経て、新潟産業大学嘱託職員・非常勤講師として働くかたわら、中央大学に復学。

2005年には初の訳書『孤将』を刊行。

2008年3月 復学していた中央大学卒業。

2013年3月 新潟大学大学院博士前期課程修了。

2013年4月 新潟産業大学経済学部准教授。

＜主な著書＞

訳書:『ハル 哲学する犬』『私たちの幸せな時間』『トガニ』など20数冊。

著書:『半島へ、ふたたび』(新潮社2009年6月刊行)は新潮ドキュメント賞受賞。『拉致と決断』(新潮社)ほか。

センター会計より 会計部長 鈴木 学
(デザインオフィススズキ・千葉県)

いつも大変お世話になっております、昨年2016年よりセンター会計を拝命いたしました、デザインオフィススズキの鈴木と申します。私塾ネットには2010年から賛助会員として大変お世話になっており

ます。日本各地を訪れた際には、いつも温かいおもてなしで迎えてくださり、本当にありがとうございます。

会計業務という大役を仰せつかることにあたり、自分にとっては何もかもが初めての経験で、特に最初の年であった昨年は、何をどのようにすれば最適

解なのかを見失った場面も多くありました。その都度みなさまには多大なるご迷惑をおかけしてしまい、この場を借りまして、遅ればせながら大変恐縮ですが、お詫び申し上げます。しかしその時すぐに救いの手を差し伸べて下さった、仲野理事長をはじめ、各エリアの会計役員のみなさま。お話をする度にとても勇気づけられたことは決して忘れません。特に初めての会計監査の前日、理事長より「大丈夫、明日は電話に出られるようにしておくから、何かあったらすぐに電話して」との言葉をいただき、緊張の中でも少しだけ安心して監査に出向いたことも忘れません。改めて私塾ネットは温かい場所であったことを実感しました。

そしてこれを機会に、今度は私から何か会計にまつわる、何かお役に立てる潜在力をつけることはできないかと、この度独学で「FP技能検定」の勉強をはじめました。これは今まででは考えたこともなかった、今までの私が全く持ち合わせていなかった新しい世界

の挑戦です。これも今回の会計業務という刺激と、何よりもみなさまの温かい心がもたらしてくれた効果です。こんな私を信用していただいたみなさまへは信用でお返ししたいと思っております。

全くの専門外である知識を身につけようとするには、考えようによつては厳しいことの連続ですが、新鮮な感動の連続もあります。また、ほぼ全てが初めての知識であることから、問題を解くごとに力がついていく感覚が比較的わかりやすいのもモチベーションに繋がっているひとつだと思いました。どこまで行けるかわかりませんが、引き続き頑張って参ります。いつも不躾なメールや郵送物で失礼を致しております。改めまして、ご挨拶が遅れて申し訳ございません。まだまだ若輩者で微力ではございますが、今後も私塾ネットの更なる発展のために尽くしていきたいと思いますので、変わらぬご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

「私塾会館設立」のための発起人・賛同者募集委員会式典・報告会に参加して



私塾ネット副理事 中村直人
(中村学院・神奈川県)

11月5日(日)連休最終日に、佐藤勇治先生の「私塾会館設立」のための発起人会・報告会が、京王線国領駅近くの調布市市民プラザ「あくろす」3階にてに行われました。この時期色々な催しが重なったためか、いつもより出席人数は少なめな印象を持ちました。(株)ナガセ様からの一対の大きな胡蝶蘭の鉢が飾られた研修室にて午後1時より、坂田邦道先生・坂田義勝先生・木下和子先生の司会により会は始まりました。

坂田先生の開会の辞に続き、ご来場の学習塾団体代表者・各参加塾の代表者・教育関連企業代表者・参議院議員大島九州男先生や渡辺美知太郎先生の代理の方などの祝辞があり、祝電が読まれました。また、ほとんどの参加者にマイクが回り皆さん一言お話をされました。

次いで概要説明と将来展望を、「私塾会館設立」のための発起人委員会代表 佐藤勇治先生が話されました。現在賛同者の人数が80人を越えている。もうすぐ100名になったら10名程度の実行委員会を作り、この事業を加速させたいとのことです。将来の希望としては、30坪程度の土地に、地下1階、地上3階建てで地下は駐車場、1階はテナントや貸し会議室、2階も喫茶店あるいは多目的な使用が出来るようにし、3階を塾の資料館として、その上がりで「私塾会館を維持・運営ができるようにしたいと考えておられるようです。松田先生によれば、場所は阿佐ヶ谷あたりが希望とかいうことでした。

佐藤先生は、現在の資料館の資料保護もあり早く進めたいとお考えのようですが、一方松田先生は、急がないという立場。長野の松本先生が自社ビルを7つ?お持ちということで色々尋ねておりました。例えば上物は地方も東京もあまり違わないが土地代が高い。う

ん億という数字も出ました。何年返済かによっても返す金額が異なる。お金を集めたで、出来ないでは詐欺になるし、佐藤先生にそんな思いはさせないと、おっしゃっていました。今はまだ具体的な青写真はないということです。

来場の方々からも、責任母体は?運営するのはどこか?すでにある物件を探した方がよいのでは。青写真がまだなくては、お金も集められない。とにかく、何のためにやるのかあるいは意義がよく分からぬといふ、根本的な疑問も出ました。さまざまな危惧の声があるのは事実です。なかなか大きな壁があることは、確かです。しかし、佐藤先生の執念ともいえるこのプロジェクトが成功して欲しいと願わない方は少ないのではないでしょうか。

これから実行委員会の名称を「私塾会館設立を推進する委員会」に満場一致で決まりました。

遅くなりましたが、今回 須原秀和先生という大阪でご夫婦二人で塾を営んで、先進的な授業をされている先生をご招待しての素晴らしいご講演がありました。すでに関東でも須原先生をご存知の先生もいるようですが、ノンネイティブの日本人が、「楽しく!英語で算数・英語で数学」を教育する「J-CLIL」教育を実践されているということで、その報告をなされました。京大での国際教育学会でもお話をされています。今までになく非常に柔軟なやり方で、筆者は大変興味を持ちました。文科省のグローバル教育の時代に向けて、小学・中学英語教育の具体的な実践方法が1つ出てきた印象です。今の学校で無理でも、塾なら可能だと思います。かなり要勉強ですけれど。ぜひもっと詳しいお話を聞きたいと思いました。

最後に、NPO法人全国教育ボランティアの会顧問の中島浩一先生の閉会の辞があり、終了後に、調布学園で懇親会・「私塾の歴史資料館」見学会が行われました。

朝日小学生新聞メールマガジン・小宮山博仁コラム特別転載

教育評論家の小宮山博仁さん（私塾ネット名誉会員）の執筆活動の一つに、朝日小学生新聞の連載コラムがあります。今回ご提供いただいたコラムでは、小学生が苦手な割合を題材に学習塾や家庭でできるアクティブラーニングを紹介しています。（編集部）

～理屈で物事を考えよう～

前回は、「100円の10%はいくらかという問題は、なぜ10%を0.1にして計算するのか」という疑問について線分図（下の図）を用いて考えました。



お母さん：「ジュン、この線分図では、もとにする量は何か？」

ジュン君：「100円をもとにする量って、母さんこの前言つてたよ」

お母さん：「では、くらべられる量は？」

ジュン君：「10円って、この前勉強したよ」

このようなやりとりは、お子さんに教える時のコツなのです。一度に教え込むのではなく少しづつ小出しにしてください。知っていることを検証しながら順番に考えていく方法が身につくからです。この時、メタ認知が働いています。いきなり「 $10 \div 100 = 0.1$ となるのよ」と言ってしまうと、ただまねをするだけになります。検証する、または検討する余裕がなくなります。

今、OECDのPISAが話題になっていますが、問題解決能力が必要な問題が中心になっています。順序だてて理屈で考えプロセスを大切にしてメタ認知を活用した学習でないと、なかなか問題解決能力は身につきません。この時、教わる側に考える余裕を与える双方向性の学習法であるアクティブラーニング(AL)が役に立ちます。

お母さん：「ジュン、100円をもとにしたら10円はどのくらいの割合なのかな？」

ジュン君：「だいたい1/10ぐらいだと思う」

お母さん：「よく線分図見て。『ぐらい』だと困っちゃうわ」

ジュン君：「この線分図10等分だから1/10だ」

お母さん：「1/10を小数で表すとどうなるの？」

ジュン君：「0.1に決まってるよ」

お母さん：「0.1が割合ね。どういう式で求められるかな。」

ジュン君：「 $100 \div 10$ じゃないかな。」

お母さん：「おかしいね。10になっちゃうわ」

ジュン君：「ちょっと待って。そうだ、 $10 \div 100$ だ。これだと0.1になるよ」

お母さん：「これで学校で習った、割合=くらべられる量÷もとにする量、という公式が出てきたわ」

ジュン君：「僕、自分で公式作ったんだ！これってすごくない？」

お母さん：「でもどうして0.1を100倍しなくてはいけないのかな？」

ジュン君：「え、そんなこと考えたことないよ」

お母さん：「では次は、その謎に挑戦してみようね」

～東大生もとまどう難問に挑戦～

今回は、「なぜ0.1に100をかけて10%にしなくてはならないのか」という難問に本格的に挑戦してみましょう。

お母さん：「ジュン、100円をもとにしたら10円はどのくらいの割合だったの？」

というメタ認知を働かせる質問をしてください。いきなり疑問を投げ掛けるのがコツです。

ジュン君：「 $10 \div 100 = 0.1$ 、10%だ。難問じゃないよ」

お母さん：「じゃあ、どうして0.1をわざわざ10%にするの？」

ジュン君：「学校の先生が、0.1に100をかけて10%にする、これが百分率だ、と教えてくれたから」

お母さん：「その通りね。でもなぜ100をかけて%にするの？」

ジュン君：「う～ん、そこまで考えてないよ」

お母さん：「少し長くなるけど、説明するわよ。求める式は $10 \div 100$ になるわね。これを分数で表すと、 $10 \div 100 = 10\text{円} / 100\text{円}$ となって、約分すると $1/10$ になるのよ。ここで円という単位が消えていることに注目してね。この単位が消えることを理解しにくい時は車で100kmの道のりを2時間かかりました。この車の速さを求めなさい」といった速さで考えるとよくわかるわよ。 $100\text{km} \div 2\text{時間} = 100\text{km} / 2\text{時間} = 50\text{km}/\text{時間}$ 。ほら、km/時という単位が残ったよね」

ジュン君：「知ってるよ。速さのところで習ったもん」

速さを単位まで着目して考えると、いろいろなことがわかり、学ぶことの面白さを体験することができます。

お母さん：「ジュン。不思議だね。割合を求めたら単位消えちゃったわ」

ジュン君：「何を表す数字かわからないよ。そうか、だから0.1に100をかけて10として、%という単位をつけたんだ」

お母さん：「そうね。%になっていると割合の数字だということがわかるのよ。割合は単位のない数なので、100をかけて%にするのよ」

ジュン君：「そうか。だから計算する時は単位なしの数字にしなくてはいけないんだ。10%を0.1にする理由がわかったよ」

※コラムは「あさじゅく」の会員になると、すべて読むことができます。会員は、メールマガジンのほか、「新聞記事の複製OK」「天声こども語の要約配信」「入試に出る時事問題配信」「新聞のロゴの使用」などの特典を受けることができます。詳細は同封のパンフレットにて。

私塾ねつと誌上句会 第二十九回

もくせいの香る保育所午睡中

竹の戸が開いて離宮は秋の色

保育園では午睡が日常のスケジュール、もくせいの甘い香りが
漂い園庭もしばしの静寂の中にある。保育園の午後の平和な風
景が目に浮かんてくる。

我が家が家の繁盛祈らん墓参り

よそ者が目立つ今年の秋祭

長江勝秋

(神奈川県)

中村直人

(神奈川県)

児童らの揃わぬ列や銀杏散る

木内恭裕

(徳島県)

ジヨギングの人影繁し秋の暮

十亀幸雄

(愛媛県)

彼岸の時期になると我が家の周りは急に騒々しくなる。というのは都営八柱靈園が近くにあるせいだ。墓参の人の波を見るたび、亡き父母への不義理と思うが、墓が四国にあるとなればまならない。

植木鉢伏せたるなかの虫の声

朽ち舟の先に立つ鵜の遠見かな

谷村志厚

(千葉県)

朽ち舟の句の季語は「鵜」で夏、晚夏の情景が浮かんでくる。私の田舎の愛媛県大洲市の夏の観光の目玉は「鵜飼い」。市内を一級河川肱川が流れしており、半世紀も前に長良川を真似て始めたものだ。長い時間を経て夏の風物詩として定着した。掲句の風景、鵜飼いのシーズンが終り、鵜にとつてはこれからが夏休みか。

廃屋の庭の熟柿や鳥の宿

大地の香実に蓄えし牛蒡かな

木の先端につつ取り残しておく柿を木守柿という。今年の豊作に感謝し鳥たちにおすそ分けを残し、来年の豊作の願いを込めたものとされる。いかにも日本の心の和む風習である。

編集部からお願ひ
次号は2月初旬発行の春号です。
投句はお一人3句まで、冬または初春季語でお願いします。
投稿はメールskot@ainet.co.jpまたは
FAX047-368-2189 谷村まで
締切は1月末日。ふるつてご投稿ください。

閑話休題

編集長 谷村志厚

◆11月8日、印刷日の朝、田中宏道先生から原稿が入って、これで全16ページが揃った。今回は掲載ネタの乏しさと入稿する文字原稿の少なさで、果たして16ページをどう埋めるのかと苦心をしていた。写真を多用するなどレイアウト上の工夫でなんとか編集を進めていた。だが最期に入った全国研修大会の予告記事で、まさに画竜点睛の感、ピタリと収まった。それにしても、来年の研修大会の講演者が蓮池薰さんに決まるとは、拉致問題への関心の高さそして米朝関係のきな臭い時節柄、これはインパクトが大きい。塾界では蓮池さん初めてのご登場とあって、講演会は大動員間違いなしと確信する次第だ。

◆理事長コラム、東北および関東エリア通信、ればーと!、事務局通信といずれも取り上げたネタが、関東・東北合同懇親旅行。いずれもSTEPさんの施設を利用させていただいたことの感激に触れている。私も料理人の一人として参加させていただいたが、この施設の設備の豪華さには度肝を抜かされた。大人数で会食ができる広々としたダイニング、完璧な厨房設備と豊富な什器類、さすが料理の腕に覚えのある高橋先生が関わった施設だと感心しきりであった。地下には30人は遊べる娯楽部屋まであり、この日はわざわざカラオケ設備をレンタルしていただいている。某有名企業のおエライさんの別邸だったとお聞きしたが、この施設を個人で管理するのは、こりやとんでもないバブルだと恐れ入った。STEPさんは隣接する場所に理科実験ラボをお持ちだった関係で、この施設の購入を決められたとお聞きした。教職員の保養、生徒の合宿等で活用されるとのことだが、また今回のように我々にもちょっとおこぼれをいただければ嬉しいなと思う次第だ。

◆OKKの活動を大きく取り上げさせていただいた。そこにも書いたことだが、塾と学校と企業が一体と

なって運用するOKKの理念にいたく賛同している。従来の進学相談会は塾側が準備・運営し、学校さんはお客様として利用されるというのが一般的だ。見方をかええば、これはほぼ塾団体の営利活動である。進学相談会は30年前塾全協さんが、都内の私学さんを対象として始めたのが嚆矢とされている。それ以来各地に広がっていくなかで、首都圏では神奈川のスバルの会、東京、埼玉そして千葉の協同組合主催の相談会と定着していった。また十数年前からは、私学の協会が主催する相談会も開かれるようになり、その形態も多岐にわたっている。そんな既成の相談会の形をぶち破るのがOKKの試みだと共感するのである。鈴木さん木谷さん頑張ってください。

◆前段で触れた千葉の塾組合、JACが設立30周年を迎える。11月26日には東京ベイ幕張ホールで記念式典と懇親会を予定している。今から20年前、その当時私はたまたま理事長を務めており、設立10周年記念事業を主催した。そのおり記念事業として「カンボジアに学校を贈ろう」というボランティアキャンペーンを実施した。その結果柏市に本部をおくASAAC・カンボジアに学校を贈る会を通じて、サラカラワ小学校という学校一校を建設し贈呈した。ASAACはその後も活動を続け、学校建設実績139校、平行して実施している識字支援事業は22期に及んだと聞いていた。先日そのASAACから一通の封書がとどいた。そこには「閉会のお知らせ」の標題があり、今年12月をもって23年の活動を停止するとあった。その理由として、カンボジアの経済復興による諸費用の高騰、現地スタッフの確保の困難さ、本部事務所の高齢化と人材不足をあげておられた。さらに、2011年の東日本大震災以降、寄付金が大幅減少したことが追い打ちをかけたとしている。時の流れとともにボランティア事業が変遷していくのは必然だと思う一方、時代の変化と時勢の移ろいを痛感せざるをえない。

私塾ネットセンター 事務局通信



事務局長 鈴木正之(いぶき学院)

朝起きたら喉に刺すような激痛が・・・声が出ない。すぐに耳鼻科に向かい治療を受けることになりました。当塾は小さな個人塾で、私の代わりに授業をする講師をすぐに準備することはできません。今まで何度か声が出ない状況で授業をしたことがあります、今回は今までより酷い状態です。しかし授業をやるしかありません。子供達にスカスカの声とホワイトボードで事情を説明すると、何も言わないでも前の方に集まって静かに聞いてくれる。本当にありがとうございます。学習塾はサービス業と位置付けられていますから、本来声の出ない講師が授業をするということは、サービスの低下であり授業料の対価にならないということにもなり、あってはいけないことでしょう。しかし、我々中小塾は今回のように声が出なくても、病気になって辛くても、けがをして歩行できなかったり板書できなかったりしても、授業をするしかない状況があります。子供たちは「他の先生に代わって欲しい」とは言いません。「大丈夫ですか」と助けてくれて協力的になってくれます。気持ちをわかってくれて普段にも増して一生懸命勉強をしてくれます。本当にありがとうございます。そんなことがあると子供たちとの関係がさらに深まり、こちらが必死に指導し、子供たちが一生懸命勉強するという好循環になっていきます。だからと言って無理をして授業をした方がいいというわけではありません

んし、本来健康な状態で授業をすることが第一であり、子供たちに甘えるわけにはいかないことは承知しています。でも、人と人の関係というのはこんなところから出来上がっていくのだと思いますし、また子供達には人の気持ちがわかる人間になってもらいたいと思います。

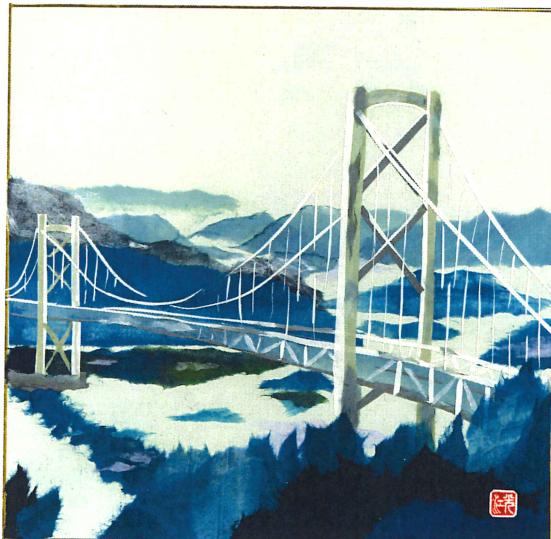
さて、恒例のエリア関東の懇親旅行が9月3日に開催されました。（詳細は別頁をご覧ください）今回はステップさんのご厚意で研修センターを使わせていただき、エリア東北から安藤先生、福士先生、佐々木先生、エリア四国からうどん名人の湯口先生が参加されました。私は懇親会のみの参加となりましたが、素晴らしい研修センター、素晴らしい料理、素晴らしい仲間とのひと時を楽しませていただきました。ステップの高橋先生と年齢が近いことがわかり妙に親近感が沸き、湯口先生と3人でお腹比べ（清水先生のFacebookにすぐに掲載されました。）をしたのが忘れられません。

仲野理事長が大忙しです。9月3日「エリア関東東北懇親旅行」茅ヶ崎、9月18日「塾全協進学相談会」新宿、10月8日「コンソーシアム協議会」佐賀、10月9日「塾の日記念式典」佐賀、10月22日「エリア関東研修会」品川、11月3日「塾全協研修大会」沖縄。

他エリアや他団体のイベントへの参加につきましては、私塾ネットホームページ又はセンター事務局鈴木までお問い合わせください。

ちぎり絵歳時記⑦（海峡）作画・中村光江

四国に生まれ育った私にとって、瀬戸内海をまたいで本州とつながるのは、子どものころからの夢であった。現在は3州とつながるが、そのうち最初のルートで本州と結ばれているが、そのうち最初のルートでは徳島県から淡路島経由で兵庫県につながる「鳴門大橋」が完成は1985年のことであった。次いで香川県と岡山県を結ぶ「瀬戸大橋」が3年後の8年に完成する。この橋は鉄道橋と併用なので電車で渡つたのだが、その時の感激は今も忘れない。それまでは宇高連絡船で、乗下船の乗り継ぎを含め1時間以上を要したのであった。前年の87年に旧国鉄が分割され、JRに衣替えした直後の開通であつたと記憶している。その後愛媛県今治市と広島県尾道市を6つの島をつなぐ「しまなみ海道」が全通する。鳴門大橋に遅れることが21年後の2006年であった。この海道は西瀬戸自動車道が正式名称だが、6つの島々を巡るコースのため他の2橋とは趣が異なっている。サイクリングコースが併設されており、典型的な瀬戸内海の風景を楽しみながら、海上50mの中散歩楽しめる。まだ行かれたことのない方のお勧めコースである。（谷村）



夕影が降りて海峡秋探し（直人）

賛助会員一覧(順不同)

関東国際高等学校 東京都渋谷区本町3-2-2	村山サンドラー先生 TEL03-3376-2244
江戸川学園取手中学高等学校 茨城県取手市西1-37-1	竹澤 賢司先生 TEL0297-74-8771
東洋高等学校 東京都千代田区三崎町1-4-16	石井 和彦先生 TEL03-3291-3824
桜丘中学高等学校 東京都北区滝野川1-51-12	高橋 知仁先生 TEL03-3910-6161
聖徳大学附属女子中学高等学校 千葉県松戸市秋山600	川並 芳純先生 TEL047-392-8111
麹町学園女子中高等学校 東京都千代田区麹町3-8	大野 博人先生 TEL03-3263-3014
春日部共栄中学高等学校 埼玉県春日部市上大増新田213	宇野 祐弘先生 TEL048-737-7611
東京立正中学高等学校 東京都杉並区堀ノ内2-41-15	安原 正樹先生 TEL03-3312-1111
八雲学園中学高等学校 東京都目黒区八雲 2-14-1	横山 孝治先生 TEL03-3717-1196
関東第一高等学校 東京都江戸川区松島2-10-11	副田 康孝先生 TEL03-3653-1541
武蔵野中学高等学校 東京都北区西ヶ原4-56-20	筒井 敏夫夫先生 TEL03-3910-0151
和洋国府台女子中学高等学校 千葉県市川市国府台2-3-1	和田 伸平先生 TEL047-371-1120
新渡戸文化中学高等学校 東京都中野区本町6-38-1	藤井三恵子先生 TEL03-3381-0196
東洋大学付属京北学園 東京都北区赤羽台1-7-12	杉原 米和先生 TEL03-5948-9113
大森学園高等学校 東京都大田区大森西3-2-12	矢部 一紀先生 TEL03-3762-7336
東京成徳大学中学高等学校 東京都北区豊島8-26-9	野中 修也先生 TEL03-3911-2786
日本工業大学駒場中学高等学校 東京都目黒区駒場1-35-32	河村 文夫先生 TEL03-3467-2130
青稜中学高等学校 東京都品川区二葉1-6-6	伊東 充先生 TEL03-3782-1502
東京女子学園 東京都港区芝4-1-30	実吉 幹夫先生 TEL03-3451-6523
駒込中学高等学校 東京都文京区千駄木5-6-25	河合 孝允先生 TEL03-3828-4141
愛國中学高等学校 東京都江戸川区西小岩5-7-1	高橋 英夫先生 TEL03-3658-4111
安田学園中学高等学校 東京都墨田区横綱2-2-25	磯 正樹先生 TEL03-3624-2666

日本音楽高等学校

東京都品川区豊町2-16-12

伊庭 崇先生

TEL03-3786-1711

立正大学付属立正中高等学校

東京都大田区西馬込1-5-1

今田 正利先生

TEL03-6303-7683

上野学園中学高等学校

東京都台東区東上野4-24-12

高橋公美子先生

TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校

東京都千代田区九段南2-1-32

車田 忠継先生

TEL03-3261-9288

村田女子高等学校

東京都文京区本駒込2-29-1

二渡 道雄先生

TEL03-5940-4455

自由学園(中等部・高等部)

東京都東久留米市学園町1-8-15

更科 幸一先生

TEL042-422-3111

帝京中学高等学校

東京都板橋区稻荷台27-1

上瀧 栄治先生

TEL03-3963-7734

京華学園

東京都文京区白山5-6-6

今野 巍先生

TEL03-3941-6493

千代田女学園

東京都千代田区四番町11

長尾 和雄先生

TEL03-3263-6551

日出中学高等学校

東京都目黒区目黒1-6-15

東 隆道先生

TEL03-3492-3388

共栄学園中学高等学校

東京都葛飾区お花茶屋2-6-1

松宮 博先生

TEL03-3601-7136

中村中学校・高等学校

東京都江東区清澄2-3-15

富田 義道先生

TEL03-3642-8041

東京女子学院中学高等学校

東京都練馬区関町北4-16-11

宗内 信二先生

TEL03-5903-9559

株創開コミュニケーション

千葉県柏市柏2-7-22-202

小林 和光様

TEL04-7164-6511

株私塾界

豊島区東池袋1-39-1三善ビル

山田未知之様

TEL03-3987-0838

株S R J

港区芝公園2-4-1柴パークB館102

板橋 玲様

TEL03-5425-6534

デザインオフィスズキ

千葉県柏市柏687-6

鈴木 学様

TEL04-7164-8276

株エ'ュケーションネットワーク

千代田区富士見町2-11-11 峰ビル3F

斉藤 高志様

TEL03-5275-2101

小池教育研究所

愛媛県今治市大西町別府2380-1

小池 仁様

TEL090-1451-9757

株POPER

新宿区南町34-1 グレンパーク神楽坂305

栗原 慎吾様

TEL03-6892-1374

L T S 株式会社

千葉県柏市花野井1925-31

堺 健司様

TEL090-2400-9515

株トーエイ 柏営業所

千葉県柏市若柴297-12

柿内 智之様

TEL04-7190-5890

株塾と教育社

東京都千代田区飯田橋4-4-8-310

加藤麻由美様

TEL03-6265-6855

株式会社 ブックモールジャパン

埼玉県戸田市上戸田4-2-33

攬上 聰様

TEL048-447-7457

教育開発出版株式会社

東京都杉並区下高井戸1-39-12

糸井 幸男様

TEL03-3304-5321

株式会社ナイス

横浜市都筑区中川1-20-1 サファーレ中川

谷村 紀嗣様

TEL03-3304-5321